

教育長賞

「わすれないよ、ひいおじいちゃんの味」

湘南白百合学園小学校

3年 松下 未侑

「いただきます。やっぱりごはんが一番。」
わたしはごはんが大好きです。まつ白のごはん、なつ豆ごはん、たきこみごはん…どれも美味しくておかわりしてしまいます。

どうしてお米がこんなに好きになったかと言うと、お米一つぶ一つぶに作った人の思いがこめられている事を知ったからです。

わたしのひいおじいちゃんは農家です。五月ごろ遊びに行くと、家の前にはたくさんのおなべがならべられ、小さくてかわいいおなべが顔を出しています。それを家族みんなで田んぼに運び、田植えきで植えていきます。わたしもお母さんといっしょに手伝いました。土だけだった田んぼにきれいなおなべの列が出来ました。田んぼに新しいのちが生まれたこの風けいわたしは大好きです。

「まつすぐだろう。」

ひたいにあせをにじませたひいおじいちゃんが自まん気に言いました。

夏になると、あんなに小さかったおなべがわたしのむねの高さにまで成長し、田んぼにはタニシやカエルの鳴き声がひびきわたります。

秋にはバツタがとびかい、田んぼが一面黄色にかわり、いよいよしゅうかくの時です。このお米には、ひいおじいちゃんと手をつないで見に行った田んぼの風けいや、家族みんなで一生けんめい田植えやいねかりをした思い出が一つぶ一つぶにこめられ、ひいおじいちゃんの「今年も美味しいお米が出来ますように」とねがいがこめられた、あじようがたくさんつまったお米です。

けれども、去年ひいおじいちゃんがなくなってしまう、もう二どとひいおじいちゃんの作ったお米は食べられなくなってしまう。ひいおじいちゃんのやさしい手のぬくもりにつつまれたような、真っ白でホカホカでやさしい味がする「ひいおじいちゃんの味」をわたしはぜつたいにわすれません。